

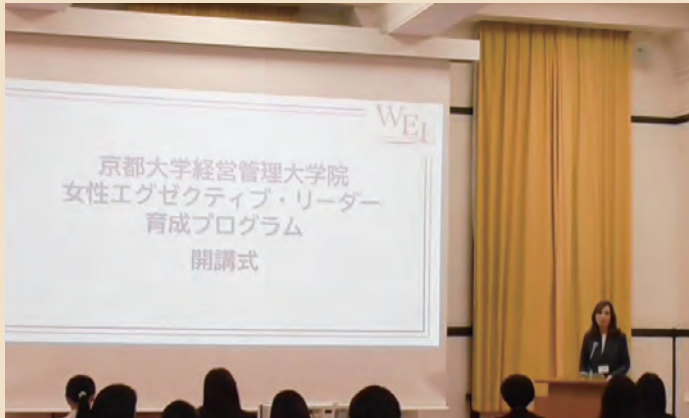
GSM Newsletter

vol.7 / 2023.12

GSM Topics

女性エグゼクティブリーダー育成プログラム 開講式
グリーンアントレプレナーシップ研究寄附講座を開設しました
講義のご紹介 エネルギービジネス展開論
新任教員のご紹介
在校生の声
ニュース・イベントレポート





「女性エグゼクティブ・リーダー育成プログラム」開講式を行いました

10月7日（土）に2023年度「女性エグゼクティブ・リーダー育成プログラム」開講式及び第1回講義（イントロダクション）を京都大学時計台記念館にて開催しました。このプログラムは、日本における取締役会におけるジェンダーダイバーシティの向上を目的とし、今年度新たに開講したプログラムです。

開講式前半では、湊長博 総長、澤邊 紀生 院長による挨拶の後、キャシー 松井 特命教授による特別講演、幸田 博人 特別教授との対談セッションを行い、その後、アスリ チョルパン 教授、関口 倫紀 教授よりプログラム説明を行いました。コーヒープレイクを交えた後、後半には参加者同士のネットワーキングで盛り上がり和やかなムードで閉会しました。開講式には受講生 28 名、参加企業役員 8 名をはじめ、大学関係者など約 50 名が参加しました。

初年度は第1期生として参加企業 16 社から 28 名に受講いただけます。来年3月までの半年間のプログラムを通じて、本プログラムでは女性役員幹部候補に向けて将来のキャリア形成を支援していきます。



湊長博 総長



特別講演の様子



「グリーン・アントレプレナーシップ研究寄附講座」を設置しました

経営管理大学院は、2023年7月、「グリーン・アントレプレナーシップ研究寄附講座」を設置しました。千本 倅生氏（株式会社レノバ 名誉会長兼 アシュラント株式会社 会長）、森 暁彦氏からのご寄附により、2026年3月までの設置予定です。

【概要】

本寄附講座は、持続可能な人間社会の前提となる豊かな自然環境の維持改善を志向するグリーンな経営活動と、市場メカニズムを活用することで社会問題を解決し、新しい社会価値の実現を目指すアントレプレナーシップとが結びつく領域において、研究教育を展開することを目指している。グリーンとアントレプレナーシップの交わる領域において活躍できる有為な人材を輩出すべく、マネジメント・ファイナンス・アカウンティングなど多面的かつ学際的に教育研究を行うものである。本講座は、グリーン・アントレプレナーシップの領域における教育研究を推進することで、経営管理大学院の在校生にとどまらず、この重要な領域における実務家・研究者の知識・能力の向上に資することを目指す。

【講義】

グリーン・アントレプレナーシップ領域において活躍している実務家の講演を含めた実践力の高い講義を開講し、経営管理大学院学生の知識水準の向上と実務能力の改善に貢献する。

【研究】

内外のベストプラクティスを収集分析し理論化を進め、それらの調査研究成果をシンポジウムなどを通じて広く発信することで、日本社会の啓蒙をはかる。

【講師】

澤邊 紀生 教授
山田 仁一郎 教授
千本 倅生 特命教授
軽部 大 客員教授
木村 麻子 客員教授

「第 11 回 天草宝島起業塾高校生コース」 を実施しました



【最優秀賞】

チーム名：熊本県立牛深高等学校 牛深高校 2 年生チーム
『牛深中心街を遊び場に！』

【優秀賞】

チーム名：熊本県立天草高等学校 Creatures Island
『みんなを笑顔にする宝箱！～全ての人に健康と美味しさを～』

チーム名：熊本県立牛深高等学校 Nexus
『釣り客を釣ろう』

2023 年 7 月 21 日（金）～ 8 月 27 日（日）の間、計 6 日間を利用して、天草市民センターにおいて「第 11 回 天草宝島起業塾高校生コース」が開催されました。

本大学院附属経営研究センターと天草市は、2011 年（平成 23 年）に包括協定を締結して以来、天草市の地域活性化に資するために、一般市民ならびに高校生を対象とした起業塾を共同開催してきました。そのうち本事業は、天草の将来を担う若者が地域の宝を発見し天草の未来を創造していくことを目的として、天草市内の高校生を対象に実施しているものです。今年は、市内の高校 4 校から 1 年生を中心に 39 名の高校生が受講しました。

初日は、本大学院より大庭哲治准教授が地域課題に基づくミッション定義、価値提案、ビジネスモデル創出等の講義を行いました。受講生は、座学のみならず、グループワークやフィールドワークを通じて、天草の地域課題の解決や地域資源の活用の視点からビジネスプランを考え、最終日にはその成果発表を行いました。成果発表会には、天草市長、（株）日本政策金融公庫熊本創業支援センター所長、各高校の教員、そして市民の方々が参加し、各グループの高校生らしい発想に耳を傾けました。最優秀賞の表彰と修了証授与をもって 6 日間にわたる起業塾高校生コースの全てのプログラムを修了しました。

イベント「クロスオーバーミーティング」 シリーズを開催しました



「アート・コミュニケーションデザインと組織経営寄附講座」では 2023 年 6 月・9 月の 2 回にわたり、「クロスオーバーミーティング」という形式での対話のイベントを開催しました。

これは「3 ジャンル以上をまたいだ対話により、認知限界を超えた集合知を生成する」ための提案型の実践であり、「ファーストスピーカー」または「テーマスピーカー」からの話題提供を元に、他の参加者も「インタラクター（対話者）」として自由に議論するものです。

テーマについても 6 月は「アート × 多様性理解 × 中小企業経営」、9 月は「アート × 基本的人権 × 道徳」と題して様々な分野の方をお招きし、経営管理大学院の学生を交えて活発な議論が行われました。

「アート × 多様性理解 × 中小企業経営」

クロスオーバーミーティング～対話と集合知生成の実践～（6/29）
＜ファーストスピーカー＞

竹中 三四郎氏（株式会社 デイブレイクフレイバー 代表取締役）
久保 昇平氏（関西巻取箔工業 株式会社 取締役 COO）

「アート × 基本的人権 × 道徳」クロスオーバーミーティング（9/16） ＜ファーストスピーカー＞

久保田 丸慈氏（愛媛県現役中学生）
井上 昌善氏（愛媛大学 教育学部 学校教育教員養成課程 准教授）
宇野 明香氏（特定非営利活動法人 happiness 理事長）
豊田 哲雄氏（大阪府池田市公立小学校 教諭）
中田 綾乃氏（一般社団法人フリンジシアターアソシエーション 事務局長）
蓮行（京都大学経営管理大学院 特定准教授／劇団衛星 代表）

講義の ご紹介



「エネルギービジネス展開論」 中山 寿美枝 特命教授

【講義について】

今、世界的にエネルギー転換（エネルギー変革の移行期）の潮流が起っています。エネルギーと気候変動は表裏一体なので、日本でもカーボンニュートラル（脱炭素）やSDGsといった話題が盛んに取り上げられるようになりました。メディアの報道を見たり聞いたりして、あれだけ熱心に報道されているのだから低炭素化も進んでいるはずと漠然と思っている方も多いと思います。実際には、低炭素化は一向に進んでいないという事実を正確に理解している人はどれだけいるのでしょうか。事実を知った上で、脱炭素の課題は何か、どうやって改善できるのかということを考えられるのではないかと、という思いが私の授業のベースにあります。この授業では、ファクトベースでエネルギーと気候変動について自分で考える力の基礎を身につけてもらうことを目標としています。SDGsについても、17あるゴールの間にはシナジーやトレードオフの関係もある、それを考えた上で優先順位をつけなければならないとしたら、どう考えるべきか、そういうことをグループで議論することもあります。

【講義の進め方】

初めは、エネルギーの過去のトレンド、現在、将来シナリオなどを理解するために、各種エネルギーデータのグラフの読み方を身につけてもらいます。例えば、あるグラフを見ると、石油の確実埋蔵量がある年に中南米で急増していることがわかります。これは、技術の発展により、深海油田の探査と採掘が可能になったことで、ブラジル沖の大規模深海油田が発見されたからです。グラフを読み取ることで、こういう背景なども知ることができます。講義には様々な英語の資料を引用していますが、そのまま使うのではなく、より関心を持ってもらえるように工夫しており、そこが一番頭を使うところかもしれません。授業の成果を踏まえてどのようなビジネスを構想していくのか、ということはグループワークを活用しています。私がビジネスを教える、というよりは、それまでの授業で考える材料を提供したので、それをベースに自分達で考えて、議論してまとめたものを発表してもらう、というスタイルです。

私自身がベースを持つ電力業界では電力自由化に伴い、ガス会社が電気事業を始めたり、小規模な電力小売の会社が急増して顧客を奪い合ったり、そういう変革が起きていることを各種データで教えています。こうしたことも参考にして、新しいビジネスの提案してもらっていますが、ビジネスモデルだけでなく、それにはどのような制度改革や新しいしくみが必要かという点も考えてもらっています。本当に皆さん着眼点は様々で、昆虫食のビジネスから CCS（CO2 を回収して地中に貯留するシステム）に関連するビジネス等、色々なアイデアが出てきます。

【メッセージ】

私が授業で教えていることは、今後学生の皆さんがどのような仕事をするにあたって役立つかと思っています。データについて考えてもらう時間や、エネルギーデータから色々な情報を読み取るという訓練は、ビジネス感覚を養うという面でも重要なのではないかと考えています。



赤倉 康寛 特定教授

【専門分野・研究内容】

海上輸送や港湾物流の計画分野が専門です。船舶動静データ（世界中の船舶の出入港実績）やAIS（Automatic Identification System：自動船舶識別装置、船舶が自船の位置や情報を自動で発信する装置）などのビックデータを活用して、海上輸送の実態の把握や分析を行うと共に、その将来予測の精度向上を図り、物流効率化・国際競争力強化やサプライチェーン強靱化のための政策を提言してきました。

【今後の取り組み・メッセージ】

地球温暖化問題への対応、2020年後半以降のコンテナ輸送の世界的停滞の発生、スエズ運河の閉塞やパナマ運河の渾濁による通航制限、日本の港湾への欧米基幹コンテナ航路の寄港便数の減少など、国際海上輸送において様々な課題があります。多くの皆様との連携により、これらに課題に対して、少しでも改善していくための研究を続けていきますので、どうぞよろしくお願い致します。



安富 稔晃 特定准教授

【専門分野・研究内容】

本年開始された「金融・資本市場とサステナビリティ」プロジェクトの担当として、金融庁より参りました。同庁では預金保険制度や金融機関の破綻処理など金融のセーフティネットに関する事、地域金融、マネロン対策、郵政民営化、資産運用の高度化といった分野に取り組んできました。

GSMでは、金融機関経営や資本市場を「持続可能」としていくために何が必要か、金融をビジネスとして捉えたいうえで、金融サービスの提供者、利用者双方の視点を踏まえつつ、理念だけではなく実際の実行のプロセスの難しさや重要性も含めて考えていきたいと思っています。

金融庁に入庁するまでは、神戸で生まれ育ちました。今回、約20年ぶりに地元に戻ってみると、東京で頭の中だけで捉えていたのとは異なり、人口減少や高齢化の影響を肌身で感じています。「地域」という視点も大切にしていきたいと思っています。



新任教員のご紹介



今村 都 特定助教

【専門分野・研究内容】

私は学部時代、タイの文化と言語を専門に学んでいました。卒業後は一度日本国内で就職したのですが、タイに行きたい思いが捨てられず、転職して日系企業のタイ支社立ち上げの仕事を2年ほどやりました。そこで日本人とタイ人は仕事に対する価値観が随分と違うなということに気が付き、大学に戻ってきてタイ人の労働観の研究を始めました。

今は経営管理大学院のパラドキシカルリーダーシップ産学連携講座というところで特定助教をしています。タイ人の労働観の研究も相変わらず続けているのですが、研究を続けるうちに、だんだんグローバルな職場で課題になるコンフリクトには（日本vsタイというような）二国間の価値観の違いもあれば、資本主義社会と自国の文化間の違いもあるなという問題意識が芽生えてきました。今はももとの研究から視野をやや広げて、資本主義社会と伝統文化のパラドクスというテーマにも取り組んでいます。

【ワークライフバランスと

女子学生へのメッセージ】

私自身はワークとライフがあまりバランスしないタイプなので偉そうなことを言える立場ではありませんが…職場における女性の権利について考える時、それが生殖のため、少子高齢化対策とか社会という全体性のためのものであってはいけなそう思ったりします。つまり、次の世代を育てることだけではなく、「今」生きている私たちの生活を向上するための権利であるべきだと思うのです。すべての女性がワークとライフをバランスしなければいけないわけではないし、仕事にまい進する権利だって女性にはあるはず。これまでの職場では女性がマイノリティで、女性が意思決定に参画していないケースも多かったかもしれません。もし、何か生きづらいと感じることがあっても、自分に落胆しないでほしい。むしろ声を上げて、これからの世界を一緒に作ってほしいと思います。



三浦 崇さん

サービス&ホスピタリティプログラム
2回生

GSM を選んだ理由

名古屋に住んでいる時に京大の「サービス MBA プログラム」をネットで知り面白そうだと興味が湧きました。漠然と MBA を考えていましたが大阪勤務をきっかけに京都大学に入学することを目標に出町柳に住むことにしました。「サービス MBA プログラム」を受講することになり仲間ができて学びなおすことの楽しさを知りました。他大学の MBA を検討せず GSM 一択だったのは、良い意味で変わった人が沢山集まって、新しいことにチャレンジしているイメージを持っていたからです。

GSM の魅力

何とんでも一流の研究者である教授陣です。「サービス経営論」で教えていただいた若林直樹教授の切れ味鋭いコメント、「サービス創出方法論」で教えていただいた山内裕教授の衝撃的な研究テーマ、「組織行動」で教えていただいた関口倫紀教授の研究者としての姿勢に惚れ込みました。そして、夢のような発想力で次々と起業していく仲間達。楽しくて仕方ありません。

GSM を選んだ理由

GSM の掲げるミッションや価値観が私の問題意識・価値観に響いたこと、そして、京都大学が国内トップクラスの総合大学であり、幅広い分野で一線級の教授陣の生講義が聴講できること、の二つの理由から GSM を選びました。

ミッションに掲げられた「理論と実践の融合」は、まさしく私がコンサルタントとしての仕事で目指すところそのものです。また、高い倫理性や自由、批判的精神、ダイバーシティの重視といった価値観は自らの価値観と一致するものでした。

さらに、他学部履修も認められることから、経営学に限らず、哲学や経済史、経済思想、AI についても見識を深めたいと思っていた私にとって、GSM は理想的な学習環境でした。

GSM の魅力

一言に集約すれば、自由と批判的精神を尊び、あらゆる可能性が開かれている、というところが最大の魅力だと思います。アカデミア/実務の最前線で活躍する教授陣・実務家講師陣に囲まれ、学びたいことを好きなだけ吸収し、追究することができる環境です。そのような自由な学びの場に集まったクラスメートは「最高！」の一言に尽きます。年齢、専門性、性別、国籍が様々な仲間が集い、そんな区別があるということさえ忘れて、ただの人間同士としてともに学び・遊んだ時間は、確実にこの後の人生の宝物になると感じます。また、そんな最高に楽しい時間に気さくな先生方も当たり前混ざっているのが、京大 GSM のいいところです。



槌田 昌子さん

ビジネスリーダーシッププログラム
2回生

GSM を選んだ理由

私は大学卒業後メーカーに就職しその後転職を経験しましたが、一貫してエンジニアとしてのキャリアを追求してきました。経営学に対する関心は以前から持っており、技術士（経営工学部門）および中小企業診断士の登録を機に、MBA の取得を決意しました。GSM は充実したフルタイムのカリキュラムで学びに専念できる環境が整備されており、日本を代表する一流の教授陣から学べる点に魅力を感じました。ちょうど甥が京都大学の総合生存学館に進学するタイミングに合わせて、入学を志望しました。

GSM の魅力

GSM 最大の魅力は「多様性」です。共に学ぶクラスメイトは、さまざまな国籍、年齢、経験、価値観などを持っています。また幅広い専門知識を持つ教授陣も特徴的で、アカデミックからプラクティカルな視座までカバーしています。さらに GSM だけでなく各学部や他大学院の講義受講も可能で、「京大の知」に触れる機会が豊富に整備されています。GSM で学ぶことにより、京都大学特有の「おおらかで自由な学風」を存分に体感することができます。



山本 和人さん

プロジェクト・オペレーションズマネジメントプログラム
2回生

同窓会のお知らせ

経営管理大学院同窓会は、2023年11月4日(土)、ホームカミングデーを4年ぶりに対面(ハイブリッド)方式で開催し、対面・オンライン合わせ約80名の卒業生、教職員が参加しました。当日は同窓会長吉住このみ氏による総会に続き、本学名誉教授、椋山女学園大学理事長 椋山 泰生先生、GSM卒業生でもあるリージョナルフィッシュ株式会社 CEO 梅川 忠典様よりご講演を賜り、経営管理大学院院長、澤邊 紀生先生よりご挨拶がありました。レセプションも、旧交を温める皆様で大変な賑わいとなりました。



Q. 今のお仕事は何年ぐらいになりますか？

A. 京都大学での採用は2011年から、経営管理大学院での仕事は2022年からです。今のような教務関係の仕事をずっとやっています。

Q. 日々の業務で、特に気をつけている点がありますか？

A. 職務の中で、まず様々なルールを学生や教員の皆さんに守っていただくということがあります。が、ルールにはあてはまらない、けれど対応していかなくてはいけない、ということも多々あります。ルールが実情に合っていないのではないかと、という問い合わせもあつたりします。変化に日々対処していく、という点は気を付けているところでしょうか。

GSMの学生さんは本当に多様で、留学生の方ももちろん、社会人として来られる方や、引退してから入学される年配の方もいたり、他の学科の大学院とはかなり異なる面が多いと感じています。

Q. 京都大学の周りにはごはん屋さんがとても多いですが、お薦めのお店はありますか？

A. 少し北に行った元田中という場所にある、マルホベーカーリーというお店がお薦めです。パスタランチが安くておいしいですよ。よく行っています。

いま、この一冊

『責任という倫理 不安の時代に問う』

【編著】 國部 克彦、後藤 玲子

【出版社】 ミネルヴァ書房

【出版年月日】 2023年8月10日



書評 山田 仁一郎 教授

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」という言葉があるが、私たちの近年の暮らしは毎日、疫病や戦争などの出来事が続いて経済社会の基盤が揺らぎ、沸騰し、喉元を過ぎて直ぐ次の火鍋の中身を飲み込まないとならないように感じないだろうか。

そんなしんどい「火鍋気分」の時代に対して、この書籍は様々な人文社会科学の分野からの著者たちによる寄稿で、よりすぐりの漢方薬を集めたように構成されている。法哲学、経済学、経営学、会計学など、多様なアプローチから、不安を抱える私たちに対して、企業倫理と社会的責任の考え方こそ処方されるべきなのだ、と、穏やかで毅然とした文体で語りかけてくる。本書は「すべての生命は生きることによって不安を抱えている」と指摘する。考えてみれば、ビジネスの源泉は、不安の存在だ。その問題解決がスケール化するから次の問題が生まれ、文明社会が「発展」し、構築されてきた。著者たちは、年月をかけて煎じてきた薬土瓶の中身を開けて処方をするかのように、今や文明社会自体が人間に新たな不安をもたらしていると喝破する。

また、「現代社会で共有されている多くの倫理は、文明社会を維持発展させる方向で作用してきたため、文明社会が生み出す新たな不安に対してはうまく機能しない場合が少なくない」とも述べ、新たな倫理が必要だとの提言がなされる。たとえば、第6章では具体的な新たな倫理の構築可能性として、私たちの企業社会における構造的不正義に対して、ジェンダー正義と財産所有のデモクラシーの可能性の観点から考える。自尊の社会的基盤の重要性に光を当て、政治的・経済的・家族的領域の全てに目を向けるべき点を示唆する。

これらの概念を身体に組み込んだあとで、逸話として挿入される2020年1月の東京都渋谷区で起きたホームレスの女性への理不尽な殺人事件を読むと、恐らく何か神経系のパルスに染み入る感覚を覚えるだろう。

この本は、調子の優れない経済エンジンにまたがって、「凡庸な悪」に染まりそうになっている私たちに「人のせいにはばかりしないで、自分の身体の声を耳を傾けてごらん。その身体を誰から借りているかを思い出させるから」と云ってくれているように私は読んだ。

経営を巡る倫理と責任に関する幅広いトピックについて、根本的に考え直す、上質な漢方風味のような一冊だ。読者は自身の気分や関心に合った薬(章)から処方していただくことをおすすめする。社会が持続するため、新しい倫理を築くために必要な一冊である。



GSM Newsletter vol.7

〈発行〉

2023年12月

京都大学経営管理大学院

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL : 075-753-3410 FAX : 075-753-3529

URL : <https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp>

